企業名：愛三工業株式会社

レポート名：「統合報告書 2022」

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

統合報告書から愛三工業株式会社が目指している将来の姿を明確に理解することができた。愛三工業が、将来目指している姿で、特に強調している点は 2 点あって、「サステナビリティ経営」と「環境経営」である。サステナビリティ経営とは、企業が持続可能性を重視して、社会の持続と事業を両立するという考え方であり、環境経営とは環境保護と利益を両立するという考え方である。この 2 つの事柄は統合報告書の序盤で提示されているが、その後の話題においても、愛三工業は持続的に発展するためにどう取り組んでいくか、環境と利潤をどう追求していくかなどが書かれているように、この 2 つのテーマが軸になって話題が展開されていた。また、2030 年の会社のあるべき姿を示した「VISION2030」とその実現のための明確な方向性が示されていた。さらに、掲載されている多くの計画に対して、目標や時期別の計画、具体的な活動内容が書かれていて、企業が目指す姿の理解に役立った。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

愛三工業の競争優位性を理解することができた。愛三工業は主に内燃機関搭載車に搭載される部品を生産している。その中で、特に力を入れていて、競争優位性が確立されている分野は EGR バルブの生産であり、国内シェアの約 53%、中国シェアの約 56%を占めている。EGR バルブとは、排気ガスを再循環させることで、燃費の向上や窒素酸化物という有害物質の減少という結果をもたらすことができる車の部品である。EGR バルブの市場は、これからの環境保護の取り組みの中で拡大していくことが見込まれる。このように、愛三工業においては、EGR バルブが競争優位を確立している。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できる

愛三工業の競争優位性に持続性があると思った。なぜなら、統合報告書では製品に関する現在の状況を分析するだけではなく、将来の変わりゆく市場に対してどう対応するかのビジョンが示されていた。また、全体的な戦略も短期、中期、長期に分類されて策定されていて、それぞれの時期の目標が明確化されていた。以上の理由から、実際の市場の変化に直面をしても、この会社の現在の競争優位性を維持するために必要な取り組みを行うことが、できると思う。

また、愛三工業が国内と中国でトップシェアを占めている EGR バルブの市場は、これからも拡大することが予測されている成長市場である。よって、この市場がすぐに縮小して、

ここから、愛三工業が撤退して競争優位性が失われることは考えにくい。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

愛三工業においては、社員に対する様々な種類の人材育成プログラムが用意されている。モノづくりやソフトウェアに精通した技能者の育成を目的としたものや、世界規模の事業展開に当たって海外の拠点を管理する幹部の育成を目的としたものなどである。また、プログラムではないが、全従業員を優れた資質を持った人材に育成する取り組みも行われているという。また、従業員一人一人が主体的に挑戦することができる会社風土を作るための施策が現在進行形で行われている。

このように、この会社では一つの分野だけではなく、幅広い分野の教育プログラムが実施されているため、自分の適性に合った部門の能力を身に付けることができると思う。加えて、積極的に挑戦できる環境において、若手の従業員は多くの経験を積むことができて、その経験は成長に生かされると推測できる。以上の理由より、この会社で自分自身の人的資本の価値を向上させることが可能だと考える。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

この統合報告書を一目見て思ったのは、図表がわかりやすいということである。言葉だけでは、理解しがたいところについても効果的に図が用いられていて、視覚的にわかりやすいと感じた。また、これからの経営方針や目指す未来についても、環境、社会、ガバナンスなどの分類分けが行われていて、理解しやすいと感じた。加えて、会社が重要だと考えていることが繰り返して記載されてるため、会社の価値観が伝わりやすい報告書になっていると感じた。

逆に、改善すべきだと思った部分は、統合報告書 P19 の表の横軸の「市場環境（~2030 年)」という部分である。ここでは、具体的な項目については、「〇〇シェア△△%　※自社調べ」と書いてあるのに対して、軸には「市場環境　（～2030 年)」とあり、表が、現在の市場の状況について述べているのか、未来の状況について述べているのかが理解し難がった。